

JR 西日本岡山支社ビル1階  
 TEL:086-225-9281 FAX:086-225-9305  
 E-mail:2014jhm@wjcs.jp

第16回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ  
<http://www.convention-w.jp/jhm2014>

## 開催報告

## 第15回日本医療マネジメント学会学術総会

### 第15回日本医療マネジメント学会学術総会

会長 望月 泉  
 (岩手県立中央病院院長)

2013年6月14日(金)、6月15日(土)の両日、盛岡市民文化ホール(マリオス)、いわて県民情報交流センター(アイーナ)他において第15回日本医療マネジメント学会学術総会を開催させていただきました。

2011年3月11日の東日本大震災津波の発災以来、被災地の復興のため、日本全国から数多くの温かい御支援を頂いておりますことについて、厚く御礼を申し上げます。

本学術総会が東北で開催されましたのは、2003年の第5回学術総会が仙台市で開催されて以来となりました。当地での開催は本来であれば今年の予定でありましたが、大震災の影響にご配慮いただき、学会本部をはじめ繰上げ開催をお引き受けいただいた佐世保市立総合病院様など皆様のご支援とご協力により、この度の開催に至った次第でございます。

今回の学術総会は、被災地の復興と崩壊が叫ばれる地域医療の再建への強い思いを重ね合わせ、メインテーマを「とりもどそう あたたかい故郷を～地域との協働で拓く医療の未来～」と掲げ、企画・立案してまいりました。

昨年の学術総会終了から開催まで8ヶ月と短期間での準備ではありましたが、宮崎理事長をはじめ多くの理事の先生方のご支援を受け、基調講演、会長講演のほか、招待講演3題、特別講演4題、教育講演3題、教育セミナー2題、フリートークセッション2題、シンポジウム12題、特別企画1題と、多彩な企画を盛り込むことができました。

また、一般演題もたくさんのご応募をいただき演題数1,001題(口演650題、ポスター351題)、クリティカルパス展示28題を採用させていただきました。一般演題のテ-

マ別の採用数では、医療安全が222題と最も多く、次いで医療の質が212題、地域医療連携が171題などとなっております。

学術総会の会期

中の参加者数は3,348名(事前登録:2,073名、当日登録:1,275名)と非常に多くの方々にご参加をいただきました。

1日目の招待講演1は、毛越寺執事長 藤里明久先生から「平泉の浄土思想と世界遺産登録」というテーマで講演をいただきました。平泉を築いた藤原氏が自分の幸せだけを願うのではなく、生きとし生けるものの全ての魂を救おうとした精神性などを紹介し、「平泉の浄土思想は、人と人、人と自然との共生を願うものであり、世界遺産登録によって、平和を希求する人類の願いにも合致する普遍性が認められた。」として、人のために生きるという考え方の尊さを感じさせるものでした。

2日目の招待講演2では、山形大学学長特別補佐の嘉山孝正先生から「病院スタッフの処遇改善における課題と解決策案」をテーマとして、講演では自身で取りまとめたデータを基に問題点や解決法を示し、「医療者と国民(患者)双方が医療を育む社会を創造しなければならない。」と指摘されました。

同じく2日目の招待講演3は、ノーベル文学賞受賞作家の大江 建三郎先生を迎え「いま、なぜ 希望を語るか」と題してご講演いただきました。公開講座として市民の方々も入場し、1,600名程のホールがほぼ一杯になるほどのご参加をいただきました。講演では、先生が被災地で出会った医療関係者から、震災後、翌日には医療を始めようとの声が上がったという話を聞いて感激したことを紹介し、「本当にすばらしい。人間らしいことをすると思った。誇りを持っていいと思う。」と述べ、「そして今、その人たちが復興に向け頑張っている。根本にあるのは人間らしさであり、苦しいことを考える時、人間の努力を知ることは私たちに勇気と希望を与える。」「未曾有の災害でも医療を行う医師、明け方まで働く医師もおり、それは医師の倫理というよりも、人間としてのモラルであると思う。人間はどのように生きなければならないのか。生きるためのモラルを中心に考えないといけない。」と語られ、非常に感銘深いものでありました。



会場風景



開会式  
 会長挨拶

会場風景